

## 令和5年度 学校関係者評価書

### 1. 自己評価書全般について

生徒は落ち着いて明るく活動的に学校生活を送っている。保護者・地域も学校に協力的である。

令和5年度の学習への取組みについては、「国語の勉強が好き」が前年度比9.4%、「社会の勉強が好き」が同5.4%の上昇、また「学校の授業は楽しい」が前年度比5.5%の上昇で一年間の素晴らしい成果であり、教職員の熱心な指導の結果と考える。課題としては、「家庭学習をする時どのようにするか分かる」が前年度比13%の減少、「わからないことはそのままにせずわかるまで努力している」が同11.1%の減少であり、自主学習の習慣に課題があることがうかがえる。

生徒の学習面は以上であるが、日々の学校生活の中で生徒自身が考えて行動に移すことを意図的に取り入れ、特別支援学級生徒と共に学校行事や学校生活を送ることで共生社会(お互い様の社会)への理解を深めていることは、生徒がやがて社会人となったときに必ず役立つことであり(人としての基本であり)、今後も継続して指導をお願いしたい。

### 2. 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

保護者、町会・自治会、同窓会、開かれた学校づくり協議会は、保護者・地域として学校に関わり、学校を大切に考え、学校を誇りに思っている。令和5年度は、コロナ禍による学校との制限が多少残ったが、令和4年度に比べて学校との関わりが緩和された。協議会が開催でき、「花いっぱい運動」や「あいさつ運動」に協力できた。

今年度は、運動会・文化祭などの学校行事や地域(地区対)主催の「荒川ウォーク」などで協議会は「見守る」ことが多かった。今後は「事業部会」の活動を盛り上げて、近隣小学校との連携活動も視野に入れつつ、生徒と地域、教職員と地域、保護者と地域の円滑かつ積極的な関わり合いにより第六中学校を更に盛り立てて行く所存である。

### 3. その他

令和5年度足立区学力定着に関する総合調査調査報告書によると、学校全体として通過率が国語・数学・英語の全ての教科で令和4年度を上回り、朝学習や補充教室などで基礎基本の反復学習を繰り返したことの成果であることが分かる。教職員に感謝する次第である。

学校だよりによると、「六中の生徒、良いよね。」とか「体調が悪く道でうずくまっている時に助けてくれたのが六中生だった」という話が学校長へ届くという。学力の向上と共に社会の一員としての言動が体現できる生徒の増加は本当に誇らしい限りである。

今年は、年明けから能登半島地震発生という大変な年で、辰年は「陽の気が動いて万物が大きく動く年」だそうである。これから先どのような世の中になろうとも、困難に耐え得る心身を持ち、互いに尊重し助け合い、目標に向かって生き抜く力を持った社会人を輩出して行く第六中学校であってほしいと願う。

以上